

令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	高木東六顕彰事業 高木東六生誕120周年 朗読とピアノ・歌でつづる「高木東六パリ留学日記」
日時	令和6年9月1日(日) 午後2時開演
会場	米子市公会堂 大ホール
実施者(団体)	高木東六顕彰事業実行委員会
補助金額	500千円

米子市出身の作曲家、高木東六が生誕120周年を迎えることを記念して実施された顕彰事業。高木東六のパリ留学時代の日記に焦点を当て、地元音楽家や研究者、高木東六とゆかりのある関係者によるコラボレーションにより、「旧・米子市の歌」、「水色のワルツ」、「春のシャンソン」などの高木東六作品の演奏と解説、トークが行われた。また、俳優・高橋克典氏(VTR 出演)による日記の朗読もあり、パリ五輪の開催と重なる年に、パリと高木というタイムリーなテーマで全国に発信することができた。

当日はあいにく台風通過直後と重なり、交通機関の乱れ等で、県外や遠方からの集客に影響が出たが、517人の来場者があった。来場者からは、「朗読や演奏はもちろん全体の構成も良く、これまで語られることの少なかった高木東六の人間性を知る良い機会となった」という声が多く寄せられ、高木氏の功績や作品、人物像などを改めて多くの方々に広める事業となった。



令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	「中井金三と砂丘社の仲間たち」出版事業
日にち	令和6年6月～11月
実施者(団体)	波田野 頌二郎
補助金額	300千円

倉吉市出身で明治から大正・昭和にかけて活躍した、画家・教育者の中井金三については、これまでその来歴や評伝、功績が一冊にまとめられたものが残されていなかったことから、県立美術館の開館に合わせ、中井金三が中心となって結成した芸術団体・砂丘社の文化運動とあわせ、その功績をまとめた書籍を出版した。

本書では、教え子である画家・前田寛治や義弟であった詩人・河本緑石との関わりや、かつての教え子や砂丘社のメンバーの記録をもとにした、中井金三の生前のエピソードの数々が記されており、優秀な画家であるとともに、情熱を持った教育者として公私にわたり教え子を支え、多くの人に敬愛された生前の中井金三の姿がありありと綴られている。

また、中井金三と砂丘社の活動が、明治から現代にいたるまでどのように継承されたのか、倉吉の市民の文化運動や県立美術館開館に至るまでの町の文化の水脈が記されている。

読者からは、「中井金三の歩んできた道と、その功績の大きさを改めて知った」、「砂丘社による芸術文化運動が社会に及ぼした影響の大きさや、現在の町の気風となっていることに驚く」との感想があった。

〔刊行物の概要〕

タイトル:「中井金三と砂丘社の仲間たち〈不思議の町倉吉〉100年の旅から未来へ」

仕様:四六版、310 ページ

発行部数:400 部

発行日:令和 6 年 10 月 20 日

令和6年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業
【とっとり文化の先人顕彰事業】

事業名	日本初の女性弁護士中田正子氏及び明治大学創立者岸本辰雄氏顕彰事業
日にち	令和6年8月23日(金)～25日(日)
会場	鳥取県立倉吉未来中心 小ホール、アトリウム
実施者(団体)	明治大学校友会鳥取県支部
補助金額	500 千円

鳥取県で活躍した「日本初の女性弁護士」中田正子氏(元鳥取県弁護士会長)と、明治大学の創立者である岸本辰雄氏(鳥取市出身)を顕彰するため、講演会とパネル展示を実施した。

講演会では、中田正子氏が日本初の女性弁護士になる道のりや、時代を切り拓き、鳥取県で活躍した後に生涯を閉じた話などが語られた。また、パネル展示では中田正子氏と岸本辰雄氏が活躍した当時の写真や業績を紹介するとともに、研究者によるパネル解説を行った。

講演会には150人、パネル展には1,350人の来場者が集まり、「男女共同参画、女性躍進に繋がる内容で参考になった」「鳥取県で活躍された中田弁護士について知る機会になった」といった感想があった。本事業と同時期に放映されていたNHK朝の連続ドラマ「虎に翼」の影響もあり、中田正子氏の功績は地元マスコミ各社でもたびたび紹介され、県内外へ広く発信された。

